

平成22年度 第1回 地域公共交通会議議事録

平成22年6月4日（金） 午後2時

市役所市長応接室会議室にて地域公共交通会議を招集する。

（出席委員） 田中修次、谷巖（代理：嶋）、脇村忠次、赤松進、高垣太郎、
中川晴雄、西村芳通、寺嶋啓一、辻本紀之（代理：谷口）、
原田貢（代理：浜地）

（欠席委員） 塩田幹雄、黒田唯雄、梅本広治、北村修、田村政博

（出席事務局職員） 橋本直明、河野孝司、鎌田利宏、児嶋利樹

（議 事）

議案第1号 有田市地域公共交通会議平成21年度決算の承認について

報告事項1 有田市地域公共交通会議監査委員の変更について

報告事項2 有田市デマンドバスの利用状況について

その他

平成22年度第1回地域公共交通会議の開会を宣言する。

1. 開会 （事務局）

ただいまより、平成22年度第1回有田市地域公共交通会議を開催いたします。本日はお忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。

本日は過半数以上の委員さんに出席いただいておりますので、本会議設置要綱第5条第2項により本会が成立いたしましたことをご報告いたします。

それでは、まず始めに田中会長よりご挨拶よろしくお願いたします。

2. 会長挨拶

有田市地域公共交通会議会長の田中です。よろしくお願いたします。

有田市デマンドバスの運行につきましては、委員の皆様方にご協議ご検討いただきまして、地域公共交通活性化・再生総合事業計画に基づいて、計画的かつ効果的な事業実施を行っているところでございます。

皆様のおかげをもちまして、平成20年度より運行を開始いたしましたデマンドバスも平成21年度事業を終え、計画終了年度の3年目を迎えております。

つきましては、本日、平成21年度事業決算も含め、今後の当会議の運営や地域公共交通機関のあり方などについて、活発にご協議していただくよう、よろしくお願い申し上げます。

(事務局)

ありがとうございました。

3. 委員紹介

(事務局)

新年度となりまして、委員様方におかれましても職場の人事異動等により委員の交代がありました。この度4名の方が新たに委員に就任いただきましたので、事務局より再度委員様全員をご紹介します。

委員紹介

委員様におかれましては今後とも当会議の運営にご協力の程よろしくお願い申し上げます。

それでは、本会議設置要綱第5条第1項の規定により、会長を議長にお願いし、議事に移らせていただきます。田中議長よろしく申し上げます。

4. 議事

(議長)

それでは、議事に移らせていただきます。

本日の議事は議案1件、報告事項2件の計3件です。

それでは、議案第1号「有田市地域公共交通会議平成21年度決算の承認について」を事務局より説明願います。

事務局より説明

(議長)

ただいま説明のありました、議案につきまして、何かご意見、ご質問はありませんか？

(委員)

歳入のことですが、負担金を有田市さんが415万、中紀バスさんが66万5626円となっていますが、中紀バスの負担金は協議会に出したということですか？

(事務局)

中紀バスさんの負担金の話ですけれど、契約に基づきまして、市の負担金プラス国庫補助金をもってしてもまかなえきれなかった分という金額を中紀バスさんの方に負担をお願いしているという形になっています。それと地域公共交通会議に負担金として頂いている形になっていますが、実質的には、運行経費の方の委託料の支払いの際に、中紀バスさんの負担分の金額を差引きさせて頂いた金額を委託料として支払いをさせて頂いている形になっています。

(議長)

他に何かご意見、ご質問はありませんか？

特に無いようでしたら、議案第1号について、原案のとおり承認することにご異議はございませんか？

(委員一同)

異議なし

(議長)

ありがとうございます。

異議が無いようですので、議案第1号は原案のとおり承認することにいたします。続きまして、報告事項1「有田市地域公共交通会議監査委員の変更について」を説明願います。

事務局より説明

(議長)

ただいま説明のありました報告事項について、原案の通り承認することにご異議はございませんか？

(委員一同)

異議なし

(議長)

ありがとうございます。

異議が無いようですので、報告事項1は原案のとおり承認することにいたします。それでは、引き続き、報告事項2「有田市デマンドバスの利用状況について」を説明願います。

事務局より説明

(議長)

ただいま事務局よりデマンドバスの利用状況についての説明がございましたが、前々回の会議でルートについても再検討をという風な形で、その会議の中では利用者みなさんの声も聞きながらということでした。特に自治会長さん方と事務局、それから中紀バスさんとその辺のところで話を進めてきたこともあろうかと思しますので、その件についてもこの際お話を願います。

(事務局)

実は会長が言われているのは、平成22年2月5日(金)の地域公共交通会議の中で協議いただいた件で、国の補助金も今年度が最終年度となるということで、4月ぐらいにダイヤ変更させていただきたいということで提案させていただきました。その中で、有田市以外の委員にはどのルートが良いのかわからないので、地元の自治会長に一任するとの形となりました。その会議の中でも、利用されるのが高齢者の方が多い、また、今までも毎年のように時刻変更をしているのに更に変えていったら余計に混乱するのではないかという意見もありました。その後、地元自治会長と話をしても、確かにそういった意見はあるだろうということになりました。しかしながら、今の状況を見てもらってもわかるように21年度中のダイヤ改正が決して良いダイヤ改正ではないと思われます。平均をとってみてもわかるように20年度より21年度が低い。1月ぐらいから右肩上がりという状況になっていますが、これも低い中での右肩上がりであるということは、今のダイヤはあまり良くないのではなかろうかと推測されます。

しかし、路線変更はいきなりやるのではなく、その時に日曜日とか利用者の少ない便を減らすという話もでしたが、住民への周知もできていない中で減らすのはどうかという意見もありまして、住民へ周知しながら今後そういった中での一つの視野として検討していくべきだということになっています。前回の公共交通会議の中でまだ7月1日を目途に時刻改正をしたいと言いましたが、確かに今のダイヤはあまり良くないと思っていますが、高齢者にわかりやすいものにするためにも今度ダイヤを変える時は2,3年ダイヤを変えなくても済むような形で改正したいと考えておりますので、もう少し事業所である中紀バスさんと事務局とで綿密に資料をもとに考え直して変更する必要があるのではないかと考えています。

それでそのダイヤ変更が22年度中になるのか、それともきりが良い4月になるのか分かりませんが、1回変えたら2,3年変えずに済むようなダイヤ変更をしたいと考えています。その際に利用人員の少ない土日を廃止するとなっても、考え方によっては全日、平日も土日も一緒のダイヤにしておいたらあまり影響がないのではと、これは事務局の考えではありますが、それも入れてもう一度中紀バスさんとどうしたらいいのか考えたいと思います。今すぐにこの便を廃止となると住民への周知もなしに、サービスの低下に繋がると思うので、その辺中紀バスさんともう一度考えさせてもらおうということで、もう少しお時間頂きたいと考えています。

(議長)

事務局よりデマンドバスの利用状況と、2月の会議で課題になっていた件の説明がございましたが、全体合わせまして委員の皆様方のご意見を頂戴いたしたいと思いますが、何か、ございませんか？

(委員)

日頃委託事業所でお世話になっております中紀バスの高垣でございます。
今事務局の方から話があって、私も前もって事務局と話をあまりしていなかったこ

ともありまして、話が違うところもあるかもしれません。利用者の利便を図るために2、3年変更のいらぬダイヤ改正という意見には賛成なのですが、2年3年続けるためにまず気になるのが予算の件です。予算がなければ2年後3年後はないと思います。しかしもうやめられないので、続けられるような、あと1年しかない実験期間中のうちに早くダイヤを変えておく方がいいのではないかと私は委託事業者としてではなく一委員として意見を出させて頂けたらと思っています。そうでないと日曜日と土曜日などほとんど乗っていないダイヤもあるので、乗ってないところを動かすよりも、国の予算、来年度はどれだけかの確定は聞いていませんが、まだある間に実験をしておかないと、予算の関係もありますし、やめるかやめないか分からない時にまた変えるとなると余計大変だと思います。なので出来るだけ早い方がいいというのが一委員としての私の意見で失礼致します。

(事務局)

2月にこの話を挙げていったのはそういう考えの下で実は挙げていったのです。補助金がある間にダイヤ改正をしたい、採算の取れるダイヤ改正が出来ないかという風な思いで挙げていきました。考えようによっては、闇雲にダイヤ改正を簡単にするよりももう少し時間などきちっとしたダイヤ改正にする方がいいのではないかと思います。というのも、20年度と21年度の平均的な比較をみても、このダイヤ改正だけしか要因はないと思います。賃金も変わっていないし、それが一番大きな要因だと思います。周るルートについても、2月会議の時に2つのルートを提案させて頂いたのですが、2つの意見が出て、それは2つのルートはどちらも長所もあれば短所もあると思います。そういった中で、私達は市内をどう周ったらいいか分かりにくいということで、地元の自治会長さん達にお願いするということになったこともあり、個人的になるかもしれませんが、もう少し考える方がいいのではないかとと思っています。

(委員)

ダイヤ改正をすれば、補助金がなくてもいけるのか？

(事務局)

いけません。

(委員)

それならば、ダイヤを決めても来年になったらまた変えなければなりません。利用者は高齢者が多いのであったら、そんなにすぐに変えられたら余計文句が出てくると思います。その辺りをよく考えてやるべきではないかと思っています。

(委員)

平成23年度の4月から国土交通省の補助金433万3千円が0円になるのは確かですか？

(事務局)

今のなかではそうです。

(委員)

そうするとその補助金がなくなった段階でどうするかということになると思います。有田市の負担も中紀バスさんの負担もどうなるか分からないですが、この事業を続けていくという前提で話をするなら、補助金が0になっても続けられるような運行の仕方、コストのかけ方・かかり方、タイヤの改正も含めて、それを考えて補助金が0だということ前提にしてこれからしばらく来年の補助金が切れる3月までの間に可能な方法を考えたらどうですか？

(事務局)

今おっしゃっている通りでして、この前ご相談したルートの件で、ルートの変更自体はあるのですが、そのルートで何本出すか、土日はどうするかなどそういったところについては、費用面等も含めて先ほどおっしゃった内容を絡ませたような本数にしなかったものですから、その後実際に乗降者数を増やすための努力をしましょうと、それから増えた状況などを見たうえで、土日減らすかどうか考えましょうとそういった説明をさせて頂きました。それだとまたどんどん色々と変わってしまう可能性があるのと、時間帯を減らしたりすることもまたあたりしたら非常に利用者の方に迷惑をかけて余計マイナスになってしまうこともあると思います。そういったことを踏まえて、冷静に、先ほど赤松委員さんがおっしゃられていた考えを下に、より経費が少なく済むような案を考えることが今事務局でも検討していかなければならないことです。そちらの方向で今後検討させて頂きたいと思っております。

(委員)

利用者の方や利用されない方がどうしたら利用して頂けるかなどのご意見の把握のされ方はどのようにされているのでしょうか？

(事務局)

事業の期間中に、例えば、デマンド地区に指定している所の方がどんな考えをもたれているのかなどのアンケート調査を取りました。実際乗ってくれた方にも以前アンケートを実施した経緯はあるのですが、去年と今年は今のところ予定はないです。

(委員)

そういうのを把握できるような方法を考えられたらどうですか？
意見箱ではないですけど、そういうのを実施しているところもあります。

(事務局)

前回の路線変更の時は意見はかなり中紀バスさんの方にもうちの事務局の方にも乗

る方も乗らない方もたくさん意見は頂けていますので、それを蓄積してどういう意見があるのか把握はしています。その内容や要望書で出てきている内容に応えられるだけ応えた路線変更を去年実施しています。それも色々な問題があって、要望はたくさん出てくるけれど実際に走らせてみるとあんまり乗らなかったところがあったりしました。ご意見を頂いて情報として持てるような形のシステムにはなっています。

(事務局)

要望を反映して減ったというのは、1つの要望を聞いたら1つの地区は便利になりますが、他の地区が不便になるところもあります。それが今回数字として表れているのだと事務局は思っています。満足している方からは比較的要望などは出てきませんので。

(議長)

運行利用状況等についてみなさまから貴重なご意見が頂いてございますが、他にありませんか？

特に無いようでしたら、本日のご提案くださったご意見等を踏まえて、事務局、それから住民を代表する委員さん方である自治会長さん、中紀バスさん、そういったところで十分検討して頂くという形で決めさせて頂いてよろしいですか？

(委員一同)

異議なし

(議長)

当然利用率をあげていくという大きな課題に向かって、ただいま申し上げましたような形で検討を進めてまいりたいと思います。

5. その他

(議長)

本日の議題でございますが、報告事項までは終わりました。その他の案件で何か、ございませんか？事務局の方で用意しているものはないですか？

(委員)

もし内示が出ていたら本年度の予算について分かっている範囲でいいので教えてください。

(事務局)

運行経費の内示についてなのですが、今の内示額は補助1/2の45%、バスの購入については1/2の20%という風な格好の内示を聞いています。

(事務局)

内示が来ているわけではないのですか？

(事務局)

内示が来ているわけではありません。

こういう風な形になるのではないかと和歌山運輸支局さんの方から聞いています。

(委員)

今の説明で理解出来ませんでした。何の1/2ということですか？

(事務局)

決算のところで申しますと、国土交通省が433万と出ていますが、これが運行経費赤字分の1/2の金額になっています。433万3千円が1/2の額です。

(委員)

これで1/2になっているのですか？

(事務局)

はい。赤字の1/2の額です。ここが1/2の45%になるのではないかと思います。

(委員)

433万3千円で言うならば、これの45%ということですか？

(事務局)

433万3千円がすでに1/2の金額になっていますので、これの45%ぐらいになるのではないかということです。

(委員)

それは22年度ですか？

(事務局)

22年度です。

(委員)

22年度はその433万とほぼ同額と違うのですね。

22年度はそれの半分以下になってしまうのですね。

(事務局)

赤字補填に関しては1/2の1/2ぐらいしか補填してくれません。国の予算自体がまずカットされたのと、申請団体が2倍ぐらいに増えたので、その分だけ全部採択してしまい、それが薄まきになってしまったということです。

(事務局)

それと当初3年目にバスを買う計画がこの公共交通会議から出していたのですが、3年前に出した時に1/2の補助額だったのが、1/2の20%と、もとの金額と比べると1/5くらいになるのではないかという話になっています。

(委員)

3年前の発足当時からしたら非常に衝撃的な数字でして、バスの車両を買うことはおろか、今のバスは委託事業者であります我々中紀バスの私物の車両を委託車両として使って頂いております。3年前では、協議会が車両を持って行くとこの公共交通会議で話し合ってた経緯がございまして、その時1/2は市から、1/2は国から、その1/2の国からの10%になってくるというので、協議会としてもやる気はあってもなかなか物理的についてこないのかなと衝撃的でございます。

もし、県の方で把握されておりましたら、他の市町村も計画で実際出来ているところがあると思いますので、有田市以外の他の市町村はどういったことになっているのか分かっている範囲で教えてほしいです。

(委員)

赤字かどうかとかですか？

(委員)

違います。だいたい暫定予算というのが1/2の60%もらっているのか、我々有田市だけが45%なのか。

(委員)

まだ継続されて22年度に入ったところがないので、まだ直接は聞かせてもらっていないのですが、運輸支局の方からはだいたい今おっしゃって頂いたみたいな1/2の半分ぐらいだとお聞きしています。

ただ一律にというわけではなくて、補助対象経費にどれが含まれているかが各市町村によっても違いますので、その辺は少しずつ違うかと思います。

21年度までと同じようなつもりでというわけにはいかないです。

(事務局)

赤字補填の補助対象という形でいけば1/2の1/2、バス購入の補助対象に関していえば1/2の20%、そういう意味です。

(事務局)

先程社長がおっしゃられたバス購入で、1/2が国から、1/2が市からと言ってくれたと思うのですが、その当時いなかったのを調べてみないと分かりませんが引継ぎでは、市の持ち分は聞いていません。国だけだと思っていたので、もう一度会議

録で調べさせていただきます。

(委員)

そしたら残りの半分はどこの負担になるのですか？

(事務局)

そこまで決まっていなかったと思います。それか事業所か。

そういうふうには聞いていないので会議録を見てみないと分かりません。

今の話だと地域公共交通会議で持つという感じを受けたのですが、そのように引継ぎを受けていないし、当時居なかったのもう一度調べます。

(委員)

私もいなかったのですが、地域公共交通会議は、法定協議会にされていますが、事務局としては通常市町村で事務局を持たれているところが多いと思うので、国で半分ということは残りの半分は法定協議会で、通常何もなかったら市町村から負担金ということになるのではないですか？

(事務局)

もともとの話ですが、地域公共交通会議の国が1/2を負担し、残りの1/2は地域公共交通会議で負担するという話の中で、地域の負担というのは、どこが負担してもいい話だったと思います。当時に遡らないと分かりませんが、例えば、自治会さんが負担してもいいし、市が負担してもいいし、事業所さんが負担してもいいし、商工会議所さんが負担してもいいという話の中で、当時その残りをどこが負担するかまで話し合ったかどうかは引継ぎの話と違う箇所があるので、そこは確認させて頂きたいです。

(事務局)

その認識がお互い確かでないということです。

(委員)

最後を詰めていないことは確かです。

(事務局)

国の補助が1/2の場合でずっと検討していたのが、1/10になっているという状況で問題提起されたのだと思います。

(議長)

事務局も人事異動等に伴ったこともあり、この場でその当時のことまで分かりませんが、おそらく最後の詰めがきちんと出来ていなかった部分があるという気がします。その辺は会議録などで遡って頂き確認して頂くことも必要なことです。仮にそ

こまで決められていないということであれば、その点も含めてこれからの課題という格好でお願いします。

他にどうですか？

(委員)

デマンドバスとか名前の違うものは県でどれだけあるのですか？

(委員)

再生総合事業を使われて、デマンドとは限らないですけど、コミュニティバスで採択されているところは21年度までで6市町村です。海南市さん、紀の川市さん、岩出市さん、日高川町さん、有田市、上富田市さんなどです。橋本市さんが今年度からです。

(委員)

それは全部まだ3年経ってないのですか？

(委員)

今年3年目になるのが有田市以外で日高川町さんです。再生総合事業を使われていないですが、南部町さんがデマンドバスをなさっています。

(委員)

自治会長さんからお伺いしていただいたこの市町村を参考にした上で、1/2の45%というのは非常に過激な数字なので、他の市町村も生き残るためにどうするかというのを考えられるかと思うのでその辺を事務局でも研究を宜しくお願いします。

(事務局)

当然その辺の情報は収集させていただきますし、そういったところとのお互いの情報交換はさせていただきますと思います。すでに情報の中では、長野市でも同様の半額措置となって、予算の範囲内で1/2ですというように書いているので法律や要綱には反しないが、そこまで予算の範囲内で落とされたとは普通想定していないというのが一般的な反応ではないかと思っております。ですので、今後おっしゃって頂いた中で研究するだけでいいのかと事務局としても思っています、当然これから採択した分だけ予算が足りなくなっている状況だと思うので、補正予算の措置などは国が考えた方がいいと声をあげていかなければならないということを検討していきたいと思っています。また県の方でも、声をあげていくべきか一緒に検討していただきたいと思っています。

(議長)

事務局から国の補助については出来るだけ通常の率を確保するような形の中で国への働きかけもしたいとそういう姿勢では、この前に和歌山の支局に行かしてもらった時に、そういう趣旨で社長さんから私達からもお願いはしてきています。引き続き機会のある毎に働きかけていきたいと思っています。

他にご意見はございませんか？

無いようですので、本日頂きましたご意見等につきましては事務局を中心にそういう風な趣旨が生かされる形に精一杯努力をさせて頂きたいと思えます。

6. 閉会

(議長)

本日予定していました議題につきましては滞りなく終了いたしました。これで平成22年度第1回有田市地域公共交通会議を終了させていただきます。本会の進行にご協力いただき、ありがとうございました。

(一同)

ありがとうございました。

会議終了